

DGD自主ゼミ 2003/08/25、09/08、10/02 担当：大久保歩
ジル・ドゥルーズ、フェリックス・ガタリ、『千のプラトー』（宇野邦一・小沢秋広・田中敏彦・
豊崎光一・宮林寛・守中高明訳、河出書房新社、1994）
第5章「BC587年、AD70年—いくつかの記号の体制について」 133 - 146 頁上段（原書
pp.140-156）

専制君主シニフィアン体制

記号の体制：少なくとも表現が言語的である場合の、あらゆる個々の表現の形式化 [formal-
istation 形成]

内容の形式：表現の形式と不可分であると同時にそれと独立に、つねに存在する 二つの形
式 [表現の形式と内容の形式] は、原則として言語的ではない諸々のアレンジメントと関わる

表現の形式化があたかも自律的で自足的であるかのように見なすことができる 「シニフィ
アン」の体制になんら特権を与えることが出来ないほどに、表現の形式は非常に多様であり、そ
れは相互に非常に混合しているから

プラグマティックへの回帰の必然性

シニフィアン体制の研究：記号の体制の名のもとに、言語学的諸前提の不十分さを証明する

記号のシニフィアン体制の単純で一般的な方式：記号は記号へと差し向けられ [renvoyer か
かわり]、それは無限に続く—シニフィアンの連鎖

× 指標：指示可能なものを構成する、領土的な事物の状態

× 図像：意味可能なものを構成する、再領土化の働き

象徴：記号から記号へとつねに差し向けられる、相対的脱領土化の高度な度合い

はじめも終わりもない、記号の網：空気のように不定形な連続体の上にその影を投影する

不定形な連続体：「シニフィエ」の役割を果たすが、シニフィアンの下でつねに滑り続ける

あらゆる内容はその固有の形式を溶解させることになる—内容の大気化あるいは世俗化 内容
の抽象

別の記号へと差し向けられる記号の無力さ 連鎖を構成するシニフィアンの強力さ

パラノイア的専制君主体制：パラノイア患者は脱領土化された記号の無力さをともに持つが、
しかし、その分、網の主人としてシニフィアンの超権力に接近する

無限の負債の悲劇的体制：人は債務者であると同時に債権者である

記号の網：無限に循環的 記号はその事物の状態やそのシニフィエより長く生き延びる

円環や連鎖の多様体：記号は同じ円環の記号へと差し向けられるだけでなく、ある円環から
別の円環、ある螺旋から別の螺旋へも差し向けられる

例：ロベール・ロウイによるクロウ族とホピー族の研究

円環から円環への跳躍：規則に従うだけでなく、禁止事項もある

円環どうしの差異：記号は、脱領土化され、ひとつの同じ意味性 [signifiante シニフィアン性]

の中心に向けられ、不定形な連続体のうちに配分されてはじめて、互いに差し向けられるが、やはり、出所を証する脱領土化のさまざまな速度や、円環どうしの区別を維持し連続体の大気の中に敷居を構成する微分的な関係 = 比は残る

体系の基礎的なペテン：円環から円環へ跳躍すること、舞台を移すことは、主体であるペテン師のヒステリックな機能であり、これは意味性の中心に打ち立てられた専制君主のパラノイア的機能に呼応している

別の側面：円環や螺旋の拡大を保証し、中心にシニフィアンを再供給することによって、体系に固有のエントロピーに打ち勝ち、新たな円環が開花し、古い円環がまた養われるようにしなければならない

意味性のための第2の機構：解釈 シニフィエの新たな形象：不定形な連続体であることをやめ、記号や記号群には、適するもの、したがって認識可能なものとして規定された一片のシニフィエが対応させられる－記号へと差し向けられる記号の連辞的な軸に、形式化された記号が適するシニフィエを切り取る、範例的な軸が加わる

僧侶によるペテンの新たな面：解釈は無限に続き、それ自身解釈でないようなものは何もかも解釈されない－シニフィエはつねにシニフィアンを新たに与える

意味性と解釈病：大地と皮膚の、すなわち人間の二つの病、基礎的な神経症

意味性の中心、<シニフィアン>そのもの：純粋な抽象、純粋原理、無－欠如あるいは過剰－記号は記号へと差し向けられる = 記号の無限な集合はひとつの大きなシニフィアンに差し向けられる

顔貌性：表現の実質 言語がつねに顔貌性の諸特徴を伴うだけでなく、顔貌は冗長性の総体を結晶させ、シニフィアンの記号を発するとともに受け、放つとともに捕らえる

顔貌：意味性の中心の身体であり、その上に脱領土化された記号すべてが捕まえられ、それは脱領土化の極限を記しづける－シニフィアン体制の図像、体系に内属する再領土化

顔貌がシニフィアンの実質を与える－解釈するものを与え、変化する－シニフィアンはいつも顔貌化される

神－専制君主：顔を隠さず、ひとつあるいはいくつかの顔を持つ－顔の監視、シニフィアンの超コード化 顔が消えるとき：別の体制へと、はるかに寡黙で知覚不可能な領域へと、動物になること、分子になることが作動する領域へと入ったとき

顔貌、あるいは専制君主や神の身体：反身体 contre-corps = 受刑者、排除されるものをもつ 専制君主の身体は屈辱や刑、追放や排除の憂き目に遭うことがあるから

受刑者：顔を失い、動物になること、分子になることのなかに入る

次に受刑者は、贖罪の山羊のように、砂漠に追われなければならない

贖罪の山羊：シニフィアン体制において、記号の体制にとってのエントロピーの増大の新たな形を表象している

1. 一定の時期のあらゆる「悪いもの」、つまりシニフィアン記号に抵抗するすべてのもの、さまざまな円環を通過する記号から記号への差し向けを逃れるものすべてのものを引き受ける

2. 中心においてシニフィアンを再補充することを知らないすべてのものを引き受け、最も外側の円環をはみ出すすべてのものを連れ去る

3. シニフィアン体制が支えられない逃走線を、すなわち、この体制が阻止しなければならず、否定的な仕方では規定できない絶対的脱領土化を、体現する

完全な体系：

1. 顔貌、あるいは神-専制君主のパラノイア身体：寺院のシニフィアンの中心にいる

2. 解釈する僧侶：寺院の中で常にシニフィアンにシニフィエを再補充する

3. ヒステリックな群衆：寺院の外で、ひしめく円環をなし、円環から円環へと飛び移る

4. 顔のない、抑鬱的な贖罪の山羊：中心から発し、僧侶によって選ばれ、処理され、装飾され、さまざまな円環を横断して砂漠へと狂気の逃走を行う

この簡略なタブロー：帝国の専制君主体制にあるだけでなく、階層的・樹木的・隷属的な中心化されたあらゆる集団において形づくられる（政治的党派、文学運動、精神分析協会、家族、婚姻など）

記号のシニフィアン体制：八つの側面あるいは原理によって定義される

1. 記号は記号へと無限に差し向けられる（記号を脱領土化する、意味性の無限界性）
2. 記号は記号によって連れ戻され、たえず回帰する（脱領土化された記号の円環性）
3. 記号はある円環から別の円環へと飛び、たえず中心を置き換えながら、そこに関わる（記号の隠喩あるいはヒステリー）
4. 円環の拡張は、シニフィエを付与しシニフィアンを再付与する解釈によってつねに保証される（僧侶の解釈病）
5. 記号の無限集合は、欠如として、また過剰として現れるひとつの大きなシニフィアンに差し向けられる
6. シニフィアンの形式はひとつの実質を持つ、あるいはシニフィアンは<顔>であるひとつの身体を持つ（再領土化を構成する、顔貌性の特徴の原理）
7. 体系の逃走線は、否定的な価値を与えられ、シニフィアン体制の脱領土化の能力を超えるものとして処罰される（贖罪の山羊の原則）
8. それは、跳躍、調整された円環、占い師の解釈の規則、顔貌化された中心の公共性、逃走線の処理などからなる、普遍的な欺瞞の体制である

二つのほかの記号系

1. プレ・シニフィアン記号系：原始的といわれ、記号なしで作動する「自然的」コード化にはるかに似ている

表現の形式の複数性や多義性 polyvocité が存在し、内容自身に固有の表現形式を保存する（身体性、動作、リズム、ダンス、儀式の形式）

表現の複数の形式と複数の実質は交差し中継される

切片的でありながら、しかし複線的で多次元的な記号系-記号は、その相対的な脱領土化の度合いを、もはや記号への永続的な差し向けに負うのではなく、それぞれの記号が抽出されるさまざまな領土性や切片の比較に負う 言表の多義性が保存されるだけでなく、言表と手を切

ることも可能である

この記号系は、来るべきもの、みずからをすでに脅かしているもの=シニフィアン体制を妨げるべく、切片性や多義性によって運命付けられている

2. 反シニフィアン contre-signifiant 記号系：放浪し戦闘する恐るべき遊牧民のそれ
切片性ではなく、代数と記数法によって機能する

数的記号：表象し、意味する数ではなく、複数的で可動的な分配をしるしづけ、それ自身でさまざまな関数や関係を設置し、総計ではなく編成によって、収集ではなく分配によって、単位の組み合わせではなく切断、移行、移住、集積によって、作動する— 遊牧的な戦争機械の記号系

帝国の専制君主的逃走線は、絶滅線によって取って代われ、大帝国内に對抗し、そこを横断しあるいは破壊する

受難の主体的体制

四番目の記号の体制：ポスト・シニフィアン体制 「主体化」という独創的な手法によって定義される

多くの記号の体制が存在する

ひとつの記号系や体制をひとつの民族や歴史のひとつの瞬間と一致させる理由はなく、ひとつの同じ瞬間、ひとつの同じ民族の中には体制や記号系の混合が存在する

あらゆる記号系は混成的で、さまざまな内容の形式と組み合わせられるだけでなくさまざまな記号の体制を組み合わせる

記号系はアレンジメントに依存する— アレンジメントによって、ある民族、ある瞬間やあるラング、さらにはある文体、ある流行、ある病理学、限定された状況における些細な出来事は、ある記号系を他の記号系より優位に置くのである

われわれは記号の体制の地図を作成しようと試みる（「宮廷愛」「マゾヒズム」）+われわれはまたこの地図を結合し、あるいは分離する— ポスト・シニフィアン体制とシニフィアン体制

二つの錯乱と精神医学の問題

20世紀はじめの精神医学が直面した問題：心的な統合を保ったままで、「知的減退」を伴わない、幻覚的のない錯乱

二つの症候群—記号の体制：

1. パラノイア的で解釈的な、意味性の観念的体制

(a) 密かな始まり—ひとつの観念の周りの内因的な力を示す、隠された中心

(b) 不定形の連続体の上での網の発展

- (c) 円環上に放射する組織
 - (d) 大気の変形
2. 受難的 [passionel 情念的] でポストシニフィアンの、主体的体制
- (a) 決定的に外的な機会– 観念よりも感情を、想像力よりも効果や行動を表現する外部との関係
 - (b) 唯一の部門の中で作動する、限界づけられた布置
 - (c) 「公準」あるいは「簡潔な公式」: 線的な系列の、過程の、出発点– 限られた線的で時間的な継起

知的減退を伴わない二つの錯乱のこの歴史は、大きな重要性を持つ

この歴史は 19 世紀の精神医学の成立の中心にあり、精神医学そのはじめから全く変わっていないことを示している

精神医学は、狂気概念やこの概念の修正に関連して成立したのでは決してなく、むしろこの相対立する二つの方向へと分解することに関連して成立した

二重のイメージ

1. 狂人ではないけれど狂人のように見える場合 (第一の体制): 精神医は、寛容や理解を擁護し、監禁の無用性を強調し、オープン・ドアの病院を求めるようになる– ブルジョア階級の患者
2. 狂人には見えないけれど狂人である場合 (第二の体制): より強い監視を求め、狂人が狂人に見えない分余計に酷くなる、特別な施設を求めるようになる– プロレタリアートの患者

主体的あるいは受難的な、ポストシニフィアンの独裁体制:

- ひとつの記号あるいは記号の一团が、発散する円環の網目から離脱し、みずから作動し、直線、すなわち逃走線の上を走り始める
- シニフィアン体制において否定的な価値をになわされていた逃走の線が、いまや肯定的な記号を受け取り、みずからの存在理由や運命をそこに見出す民によってめられ、なぞられる

パラノイア的ファラオと受難的ヘブライ (発散する円環的網目と線的な「訴訟あるいは要求」)

ユダヤの民の歴史において最も基礎的で最も広範な出来事: 二度にわたる寺院の破壊 (BC587、AD70)

移動可能な、脆くあるいは破壊された寺院 / 棺は記号の小さな箱となる / 脱領土化の線、山羊の線を辿り、それを肯定的な線に変えなければならない

この記号系も混成的である: 反シニフィアン記号系とシニフィアン記号系との密接な関係

顔貌性は深い変形をこうむる: 神は顔を背ける。その顔を誰も見てはならない。反対に、主体は、神の真の恐怖にとらえられ、顔を背ける

この二重の背けにおいて、肯定的な逃走線が引かれる

預言者: このアレンジメントに属する人物– 神の言葉を保証する記号を必要とし、その記号に

とらえられ、脱領土化の線を辿る（カイン）

帝國的な死の代わりに、ユダヤの神は、猶予、無期限の延長を發明し、また神との新たな関係として契約の肯定性を發明する

裏切りの体制：神が人間を裏切るのと同じように、真の人間は神を裏切る（モーゼ、ヨナ、イエス）

預言者：神によってたえず強いられ、文字通り神に犯される－神は彼の口に言葉を押し込む

預言者は何も解釈せず、観念や想像力の錯乱ではなく、行動の錯乱を抱え、神と受難的で独裁的な関係を持つ 現在や過去の力能を適用するのではなく、むしろ未来の力能に先んじ、これを先取りする